

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立大川内小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・学校・家庭・地域が連携して児童の教育に携わり、全国PTA表彰、伊万里市教育委員会表彰を受けた。職員・保護者・児童・地域対象の教育に関するアンケート調査においても、それぞれに高い評価を得ることができた。 ・5年生はまとめのテストなどで全国平均下回っている。そのため現在、取り組み続けている朝のモジュール学習も継続させ、基礎基本の定着を図らなければならない。児童の実態を分析し、課題を明らかにした上で指導法の改善を図っていく必要がある。 ・いじめの認知、対応について、複数で対応することができた。これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に複数で取り組んでいく必要がある。 ・働き方改革の視点から、職員一人一人に超過勤務を削減する必要性の意識付けはできてきたが、その実現に向けた具体的な取り組み方の工夫を考える必要がある。		
2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 ～勉強することが楽しい 人とかがわるることが楽しい いろんなことに挑戦して楽しい～		
3 本年度の重点目標	・大運動会や150周年事業などを中心に、地域の協力を受けながら、地域の「人・もの・こと」と連携した教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・常にすべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、校内研究を軸に、学ぶことの大切さを知り、学ぶことの楽しさを感じ、学びを深化させようする児童の育成を目指す。 ・家庭や地域、専門機関との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子をしっかりと見取り、複数で対応していく。		

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ○自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための学びあい活動の充実	○全国及び県の調査やCART検査で、全国、県の平均値を上回ることを目指す。 ○学びあい活動を校内研究の中心に位置づけ、取り組んでいく。	・校内研究教科の国語を中心に児童が自らの考えをもち、仲間との対話で学びを進化させる授業を意識し、取り組んでいく。 ・モジュール学習に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能を身につける。	A	・全国調査、県調査において、国算とも平均正答率を上回っている。国語を中心に対話活動を取り入れ、互いに高め合うことができたことが原因であると考えられる。また、モジュール学習による基礎学力定着もある。94%の児童が「勉強がよく分かります」と回答している。	A	・学校運営協議会で授業を参観した際、子どもたちが楽しそうに授業を受けていた。その姿を見たら、学力も向上すると思う。 ・少ない人数なので良い雰囲気できまともやりやすい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○90%以上の児童が、交流中、交流後にもつ感想において、誰もが交流した相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。	・異学年交流である縦割り活動や特別支援学校との交流などを行う中で、相手を感じる、思いやりや敬いの気持ちを育てる。	A	・1年間を通して6年生を中心に上級生が下級生を思いやる態度を多く見ることができた。 ・93%の児童が、交流した相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができている。	A	・サマースクールでがををした子がいたとき、言われずとも寄り添っている周りの子を見て子どもたちの思いやりある行動を見ることができた。 ・学校行事でも上級生が下級生の面倒をよく見ている。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。 ○「学校が楽しい」と回答する児童の割合が90%以上を目指す。	・これまで実施している月1回の「心のお天気アンケート」や普段の関りから、児童の学習、生活、友人関係等における悩みなどの把握に努める。 ・アンケート実施後、気になる児童についてはすぐに対応し、職員連絡会などで情報共有する。 ・家庭との連携を図るうえで、SCやSSWを効果的に活用していく。	A	・90%以上の教職員が、「心のお天気アンケート」や「いじめアンケート」から児童の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期理解に努めることができている。 ・アンケート結果などから、SSWを中心に不安がある児童、過去に不安があった児童を相談につなげ、未然防止に努めている。 ・94%の児童が、「学校が楽しい」と回答していることから、安心して生活することができている。しかしながら、不安を抱えた児童もいるであろうから、今後も児童理解には力を入れて取り組みたい。	A	・下校している様子を見ていると上級生と下級生、同級生同士仲良く帰っている姿を見る。 ・SC、SSWなど外部の専門家とつながっていると聞いて安心した。SSWがよりどころになっているのは良いことである。
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・委員会活動や係活動などの学校における活動全般において、意図的に児童が活躍する場を設定し、承認される場を設ける。 ・キャリアパスポートを活用し、各学期のめあて、教科や行事、体験活動と関連付けて作業を行う。	A	・94%の児童が、「先生はあなたのよいところを分かってくれている」と回答している。授業だけでなく、委員会活動や係活動においてもほめることを大事に接していることがこの結果につながったと思われる。 ・「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が88%であった。大人になりたいことを描くだけでなく、日々のスモールステップがこの結果につながったと考えられる。	A	・日頃の生活の中で先生が子どもたちのことをよく見ているので、このような評価になっていると思う。 ・「見てもらっている」と子どもたちが思うことはとても良い。叱ってもらったことも見てもらえていると感じてくれるような関係であってほしい。
	○明るいあいさつと返事、そしてあたかい言葉づかいで交流する児童の育成	○「明るいあいさつ」、「元気な返事」ができている割合が、児童本人だけでなく、地域や保護者も80%以上にする。 ○「言葉づかいに気をつけている」と回答する児童が80%以上、地域や保護者の割合を70%以上にする。	・場に応じた言葉づかいやあいさつ、返事ができるように全職員が共通認識のもと、日常的に指導する。 ・学級指導や道徳を中心に児童の実態に合わせて指導し、自分の生活に目を向けさせ、意識の向上を図る。	B	・「明るいあいさつ」、「元気な返事」そして「言葉づかい」においては、児童の意識と保護者の意識に差が見られた。学校での挨拶は、よくなっているものの、家庭でも向上させなければならない。そのためには、家庭をもっと巻き込んで挨拶の向上に努めなければならない。 ・道徳教育、人権・同和教育については、取り組むことができていると考えるが、さらに日常において実践で	B	・子どもたちは元気に言うことができるのだから、大人も自分から挨拶をしていこうとしなければならない。また、家庭でも声をかけていかなければならないと思う。 ・親しき中にも礼儀ありと時間や場所を考えられる子どもになってほしい。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食事をしている児童80%以上	・栄養教諭と連携し、低中学年を中心に食育の授業を実施する。 ・保健だより等で年間を通して食育を通して健康づくりを呼びかける。 ・朝食喫食率を95%以上を目指す。	A	・「健康に良い食事をしている」と回答した児童は、97%であった。また、朝食喫食率も97%であった。栄養教諭との連携、保健だよりでの食育の大切さの呼びかけなどが良いと考えられるので次年度も継続して取り組んでいきたい。 ・朝食をとらない児童については、児童本人だけでなく、家庭とも対話を続けていかなければならない。	A	・朝食をとらない子だけでなく、とれない子がいると思う。そこも把握してほしい。 ・中学年以上は、自分で用意するくらいの意識を持ってほしい。 ・これからも呼びかけを行ってほしい。
●健康・体づくり	○望ましい生活習慣の形成	○中学校のテスト期間に合わせ、「SNSを利用した動画視聴削減週間」を設け、守ることができた児童が80%以上 ○アンケートで「外で遊んだり運動し、心身の健康を維持している児童が80%以上」	・「便利さだけでなく、スマートフォンなど情報機器の長時間使用等が心身へ及ぼす影響について指導する。削減週間を受け、アンケート調査を行う。 ・なかよしタイム（縦割り活動）や体育科の授業で運動に親しませ、体力の向上 ・金曜日を定時退勤日とし、定時退勤を推奨する。 ・平日は19時を目安、また、月45時間以上の超過勤務が生じないよう呼びかける。	B	・ノーマディア週間を年間3回実施した。徐々にではあるが、SNS等の利用を控え、生活することができた家庭が増えてきている。しかしながら、まだ十分とは言えない。今後家庭と連携しながら望ましい生活習慣の形成を図る。 ・縦割り活動は楽しんで取り組むことができている。	B	・家庭での指導が大きいと思うので、保護者対象の研修会、講演会等を継続して行ってほしい。 ・ノーマディア家語週間を継続し、親子の触れ合いを大切にしたい。 ・学校から帰って、外で遊ぶ子を見かけたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○会議、事務の効率化	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を図るとともに、専門家の指導を通して理解を深める。	A	・1年間を通して、「月45時間以内」を目指して取り組んだ。校時表の見直し、行事精選に職員全員から意見をもらうなどして全員で意識を高めることができた。 ・年休だけでなく、他の休暇も有効に所得できていると思う。	A	・校時表を変えて良い結果であるなら、続けてほしい。 ・先生方の働きやすい職場環境づくりをこれからも続けていただきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○会議、事務の効率化	○会議の超過時間「0」を目指す。 ○会議資料や授業の教材等、校務サーバー内に置き、供覧することで効率化を図る。	・資料の事前配布、事前に読んでおくことの徹底、会議開始、終了時刻厳守の継続。 ・校務分掌や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。	A	・会議の超過時間については、「0」とならなかったものの、ほぼ全てにおいて取り組むことができた。 ・校務サーバーの活用については、中間評価時と同様に活用することができた。	A	・学校評価を含め、私たちがQRコード等を利用して楽であった。こういう取り組みを継続してほしい。 ・タブレットなどに文書を置くようになってきているので良いと思う。
	●特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画、指導計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を図るとともに、専門家の指導を通して理解を深める。	A	・特別な配慮を要する児童については、継続して共通理解を図ることができた。また、児童本人にとって望ましいと考えられる就学について十分に検討し、保護者が望まれる方向に就学させることができた。 ・次年度は、講師を招聘し、大川内小学校が抱える疑問など解決できるよう図りたい。	A	・学校運営協議会の時に授業を参観し、教科ごとなど個別に対応してもらっているのが良いと思った。 ・特性が異なる子どもたちの指導は大変だと思うが頑張ってもらっている。とても良い雰囲気だったので日頃より関係を築いてもらっていると思った。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ふるさと学習の充実	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育	◎地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上にする。	・田んぼの学校、各学年の発達に応じたふさと学習、見守り隊の方とのふれあい等のよさに気づかせる。また、創立150周年行事を通してより地域を知ることでさらなる感謝の気持ちを育む。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となった活動等に取り組む、郷土への誇りを培う。	A	・地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童が98%とほぼすべての児童が大切にしたいとしている。今年度、150周年記念事業において様々な取り組みを育友会を中心に行い、児童も活躍の場があったことが原因であると考えられる。この素晴らしい結果を次年度以降も継続できるよう地域との連携を高めた。	A	・地域の見守り隊として活動を行っているが、このまま安全に登下校してほしい。 ・いろいろな取組がとても良いのでこのまま継続して活動してほしい。 ・地域とのつながりは大川内小の素晴らしいところなので今後も積極的に取り組んでほしい。
○危機管理の強化	○交通安全等の指導 ○情報モラルの指導	○「交通安全に気を付けている」と思う児童、「危険から身を守る能力が身に付いている」と思う保護者を80%以上にする。 ○情報モラルについて、十分に理解できている児童を90%以上にする。	・地域の見守り隊の協力も得ながら、交通ルールについての声かけを常日頃行う。 ・交通安全教室、集団下校において、繰り返し、交通安全についての話をを行う。 ・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。その結果を踏まえて、保護者と児童向けに情報モラル教室を行う。	B	・交通安全については、地域の大きな力を日々感じている。そのような中、「気を付けている」と98%の児童が思っているものの保護者は80%ほどである。やはり、どこにおいても意識を高く持つ児童の育成が必要である。 ・情報モラルについては、児童は90%以上守ることができているとしている。大きな問題は起こっていない。	A	・通勤時に他の小学校区を通ることがあるが、大川内小学校の子どもたちには、交通マナーは良い方であると思う。 ・情報モラルについては、家庭の協力が絶対必要であると思う。家庭にも呼びかけてほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力向上や心の教育において高い評価をいただいた。話し合い活動やモジュール学習は積み重ねが大切であるので、今後も継続させ、児童に力をつけたい。 ・ふるさと学習は、学校運営協議会委員の皆様から特に高い評価をいただいた。学校を支えてくださる地域の方々への感謝の気持ちを児童だけでなく、教職員・保護者ももち、学校、家庭、地域で児童を育てている良さを今後も継続させていかなければならない。 ・情報モラルについては、保護者、そして学校運営協議会委員の皆様からの評価は高くなかった。児童に指導を行うことは当然であるが、育友会と連携し、保護者の方々にも危機意識を持ってもらえるような取り組みを行ってきたい。
----------------	--